

## ことすか祭 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

5月10日(木)谷川神社例祭当日と13日(日)に実施。

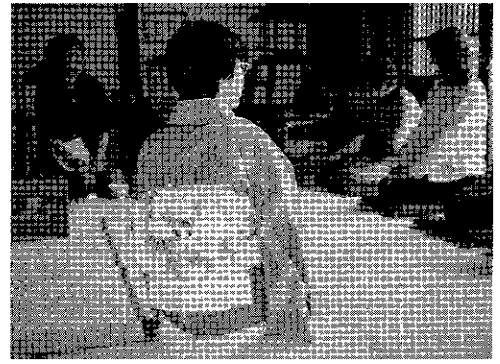
①「お茶会」昨年同様「昼過ぎより雨」の予報で、福蔵寺の中で行う。

しかし、谷川神社への献茶の時は晴れ。点前は馬場社中。水屋は会員数名が手伝って和気あいあいと。

お客は84名。

②「展示」旧宅で神宮寺蔵36歌仙扁額のパネルを展示し、佐野会員が解説を墨で書いてその下に展示。見学者約100名。

③「近鉄ウオーク」津新町駅で受け付け、3～4班で案内。約60名。



お茶会の様子(後姿が馬場さん)

## 谷川士清生誕300年記念事業の推進状況報告

1 谷川士清生誕300年記念祭の小論文・短歌・作文・絵画・書道の作品募集は津市の広報と新聞紙上、また、小・中・高校と大学へは募集要項を郵送するなど。4月から行う。(少なくとも3月に企画)

2 記念誌の執筆者として承諾いただいた方々(順不同)

皇學館大学(渡辺寛教授・高倉一紀教授)

和洋大学(三澤薫生教授)

白百合女子大学(山本真吾教授)

南山大学(安田文吉教授)

医学者(杉山陽一氏)

本居宣長記念館学芸員・吉田悦之氏

中央公民館学芸員・山口格氏

旧市役所職員・茅原弘氏

ふるさと新聞社・西田久光氏

その他…国語学者・草川昇氏、石水会館関係者(士清関係の所蔵本の資料写真など)

3 実行委員会の設立と実行状況中間報告

藤井義昭

1. 平成19年2月24日(土)、第一回実行委員会を開催。

① 役員選考を行い、実行委員会の役員の事業担当者を決定。

委員 長：藤井義昭、副委員長：馬場幸子・別所勝、会計：谷口昇、事務局：井田明

その他委員：池村純佳・板谷清二・上島誠子・梅原豊・奥田榮子・熊谷一馬・佐野萬里子・高土啓子・

竹内令・谷岡経津子・西尾惇・藤岡美也子・別所富貴子・増井治生・森晋・森下隆史・

山下孝治・吉川ツネ子・渡辺純子(50音順・士清の会役員を含む)

② 会の名称を【谷川士清生誕300年祭実行委員会】とし、以後「三百年祭実行委員会」と略称。

2. 谷川士清生誕300年祭に関して、谷川士清の会としての記念事業計画を具体的に検討する。

① 事業内容と事業費を検討し収支予算を策定する。

② 記念事業の募金趣意書案を協議し、上記①の件の細部について継続審議とし、事業実施までの間検討を重ねる。

③ 谷川士清先生生誕300年記念事業募金趣意書を発起人代表元津市長岡村初博氏その他団体・個人に依頼して、募金活動の準備をする。

3. 19年5月、三重ふるさと新聞の紙面上に2009年谷川士清生誕300年記念事業の募金スタートの記事を掲載する。【目標金額500万円】市民団体が実行委員会を設立して、6月から募金活動に入るの、市民の皆さまに広くご協力をお願いします。募金額の積み上げを目指し、生誕300年記念事業募金活動を行い、その間津市を始め関係機関と連携して生誕300年記念事業について再考し、充実した記念事業とする。さらに2009年は2月26日の生誕日前後1週間を中心に1年間かけて士清生誕300年祭事業として、津市だけでなく県内外に発信していく。

4. 記念事業の概要(募金の趣意書にも記載)

① 谷川士清生誕300年記念祭の小論文・短歌・作文・絵画・書道の作品募集は、新聞社の協賛を得て、新聞紙上と市の広報等と連携して、少なくとも20年4月から行う。高校生・一般の部と小・中学生の部に分けて募集する。(3月中に計画書作成)

② 記念誌の執筆者は、語学・歴史学・医学・薬学等の専門学者に依頼する。(馬場さんより)

5. 平成20年1月24日(木)、三重ふるさと新聞紙上に、2007年5月から12月の間に記念事業募金に3000円以上ご協力下さったの方々の氏名と団体・事業所名を公開し、厚くお礼申し上げるとともに、市民各位に今後の継続募金を併せてお願いした。なお、年末の締切以後の方々については次回で発表する。今後もいろいろ検討すべき事がたくさん残っているので、その都度協議していく。